

# 令和3年度 事業報告

## 令和4年度会長 ご挨拶

## 令和3年度報告書 令和3年3月1日～令和4年2月28日

事業報告

貸借対照表

正味財産増減計算書

財務諸表に対する注記

付属明細書

財産目録

監査報告書

## 令和4年度計画書 令和4年3月1日～令和5年2月28日

本部・支部役員

日本油化学会組織図

事業計画

収支予算書

## 公益社団法人 日本油化学会 定款

令和4年4月20日総会決議 令和4年4月21日施行



公益社団法人日本油化学会

## 学会ビジョン

『オレオサイエンスを切り拓き、快適生活を支える科学者と技術者の交差点』

将来構想委員会提言より



## 令和4年度会長 北本 大 ご挨拶



### "コロナ"禍を転じて福となす

一昨年度からの経緯を慎重に踏まえながら、年會を始めとする各種の学会行事を、アクティビティを落とすことなく「これまで以上に」運営することに努めて参りました。結果的には、皆様の多大なるご理解とご協力のお陰を持ちまして、多くの行事においてコロナ禍前と同様の活動を維持することができました。年會については、開催期間が前回から大きく前倒しになったことによる参加者の減はあったものの、全てのシンポジウムや企画において、対面開催と同等以上の充実した発表や討議があったとの認識です。また、前回の反省点であった「学会の臨場感」についても、ライブでのショートプレゼンや Q&A を採用したことで、大きく改善されました。社会的に「in person」並みに「on Web」が浸透してきたこともあり、各種の行事にオンライン開催の長所をさらに生かすことができました。

この流れを受けて、学会創立 70 周年となる本年の年會も、第 2 回オレオサイエンス国際會議 (WCOS2022) と併せて 8 月末にオンラインで開催予定です。当初、素晴らしい自然と食を誇る北海道釧路市において対面での開催を計画しておりましたが諸般の事情を鑑み、積極的にオンライン開催へと舵を切りました。なお、第 3 回オレオサイエンス国際會議 (WCOS2027) は、2027 年夏に釧路市にて対面で開催予定ですので、明るい未来を期待して是非とも両方へご参加願います。

一昨年来の「失われた日常」を通して、皆様の生活様式やビジネス習慣も大きく変化したことと思います。今まで、「あって当然」と思っていたことが、「なくて当然」になったことも多いのでは。個人的には、「懇親會」がこの一つになりつつあることに、一抹の寂しさを覚えます。最近のアンケートによれば、仕事において「飲みニケーションは不要」と回答する方が、「必要」と答える方を上回り 6 割以上に達しているようです。今後の学会は、「利便性」や「収益性」を考慮してハイブリッド開催が主流になるかと思いますが、「夜に、懇親會で討議する」から、「昼に、アルコールフリーで討議する」に作法が完全に置き換わらないことを祈るばかりです。

一方で、私自身、コロナ禍でポジティブに変わった生活様式があります。コロナ禍前までは、週末はほぼ全て屋内外での運動(スイム・バイク・ラン)に明け暮れておりました。しかし、コロナ禍となって、この行為の成果を発揮する場(各地での大会)が激減し、モチベーションが低下するとともに週末の時間がポツカリと空いてしまいました。同時に、年齢的には「セカンドキャリア」をどうするのか、という問題も顕在化してきました。それならばと、以前から興味があった異分野の学習や資格取得に取り組み始めました。長年の「懇親會」通いによって減退した記憶力での「受験勉強」は予想外に時間を要し、週末はあつと言う間に過ぎていきます。しかし、今や色々な学習が Web で気軽に効率的にでき、大会に遠征するような感覚で、新しい知識や経験との出会いを楽しんでいます。

昨年の年會シンポジウムでは、「人生 100 年時代、快適生活に向けてオレオサイエンスができること」について講演させて頂きました。その中で、「生活に密着した科学や技術を扱う人々がオープンな雰囲気で行き交う当會は、新しい日常に資するサイエンス、製品・サービスの創造の起点になり得る」とご紹介しました。このビジョンのもと、2022 年も皆様にとって素晴らしい年となることを、お祈り申し上げます。

(産業技術総合研究所 中国センター所長)

# 令和3年度 事業報告

令和3年3月1日から令和4年2月28日まで

## 1 会員状況

### 1.1 法人会員及び団体会員

級 種	令和3年度末	令和2年度末	増 減
1 級	9 社	9 社	±0 社
2 級	4 社	4 社	±0 社
3 級	18 社	18 社	±0 社
4 級	32 社	32 社	±0 社
5 級	79 社	78 社	+1 社
計	142 社	141 社	+1 社

### 1.2 個人会員

種 別	令和3年度末	令和2年度末	増 減
正会員	877 名	898 名	-21 名
(内・名誉会員)	(10 名)	(10 名)	(±0 名)
(内・永年会員)	(35 名)	(34 名)	(+1 名)
学生会員	76 名	83 名	-7 名
アジア海外会員	22 名	20 名	+2 名
アジア海外学生会員	1 名	2 名	-1 名
計	976 名	1003 名	-27 名

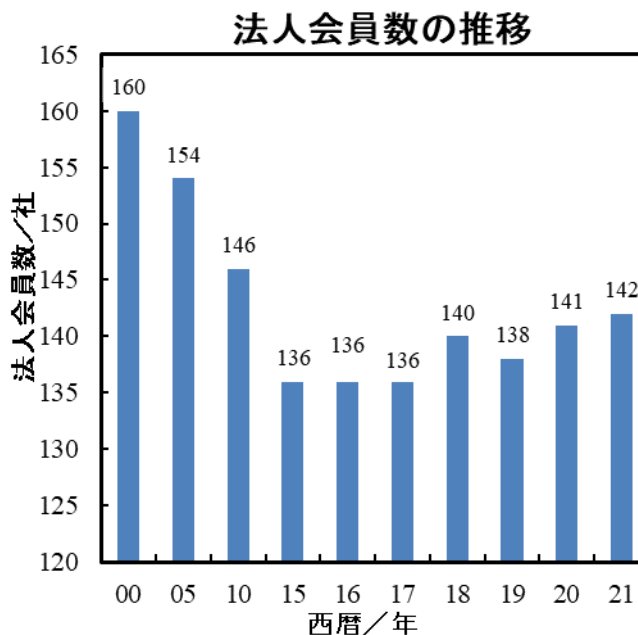
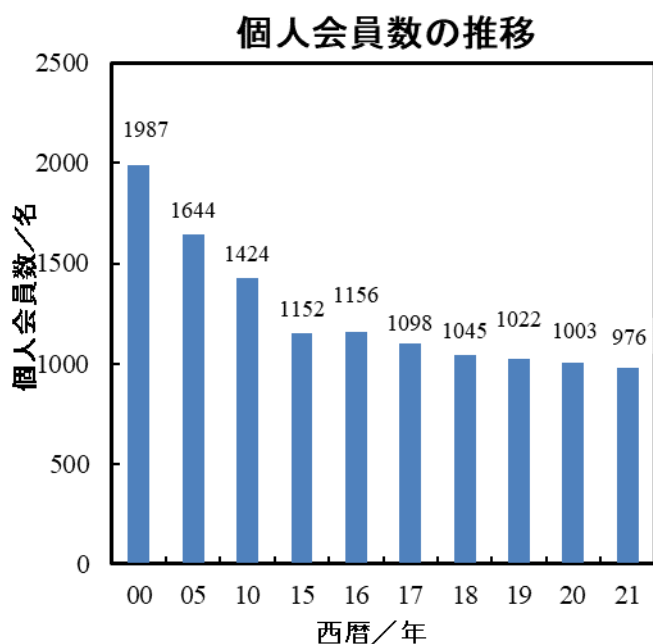
### 1.3 名誉会員(10名)

阿部 正彦 池田 功 伊藤 俊洋 荻野 圭三 北原 文雄 島崎 弘幸  
田嶋 和夫 常盤 文克 二木 鋭雄 宮澤 三雄

### 1.4 日本油化学会フェロー(13名)

石上 裕 今栄東洋子 岩橋 槇夫 岡崎 三代 佐藤 清隆 菅野 道廣  
妹尾 学 武田 徳司 松村 秀一 宮澤 陽夫 師井 義清 山根 恒夫  
Ching T. Hou

### 1.5 会員数の推移(個人・法人)



## 2.1 総会

第 67 回定時総会を令和 3 年 4 月 22 日(木) 油脂工業会館 9 階会議室にて開催しました。東京都は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染爆発段階に再突入寸前の状態であったため、感染予防の観点から通常の対面形式をとらず、定款に則り、議決権行使書と委任状のみによる書面決議としました。総会当日は、出席者間の距離を 2m とり、アクリル板の仕切りを設置し、マスクを着用して、朝倉会長、北本副会長、宮前理事、金子事務局長の 4 名が会議室に出席し、社員は内閣府が推奨する TV 会議システムで出席し、通常の対面形式の会議と同等な意見交換ができる通信状態であることを確認して総会を開始しました。社員の出席者数は、総会当日の出席者 22 名(内 TV 会議出席者 19 名)、書面による議決権行使者 82 名、委任状提出者 0 名、を合計した 104 名となり、定款が定める定足数(社員総数 119 名の過半数 60 名以上)を満たしました。

決議の前に朝倉会長より令和 2 年度事業報告があり、理事会等の開催状況について説明が行われました。そして理事の職務執行状況と計算書類は監事 3 名全員の監査を受けて、公益法人の基準に準拠して適正であったことが紹介されました。続いて令和 2 年度事業報告及び決算案が審議され、原案通り可決・承認されました。次に、令和 3 年度の役員(理事 14 名、監事 2 名)の選任が行われ、原案通り可決・承認されました。最後に COVID-19 等でテレワーク中でもメール等の電子媒体で総会の議決権行使ができるよう、定款第 4 章総会(書面による議決権の行使)の一部変更が提案され、定款変更の決議に必要な定数(総社員の 3 分の 2 となる 70 名)を超える賛成者 104 名を得て承認・可決されました。そして令和 3 年度収支予算の報告が行われ、予定の内容を全て執り行い閉会しました。

本総会で選任された 14 名の新役員を含む令和 3 年度の役員は、総会に続き、第 447 回理事会を TV 会議を併設して開催しました。小山役員等候補者推薦委員長から新代表理事として会長に 北本 大 氏が、副会長に朝倉 浩一 氏、桂木 能久 氏、額額 守 氏の 3 名が推薦され、そして新業務執行理事として事務局長に金子行裕 が推薦され、承認・可決されました。そして、新会長に就任した北本 大 氏より、各理事へ担当業務の委嘱が行われ、本年度の執行体制が整いました。

理事会閉会后に黒岩前総務委員長が司会進行務め、TV 会議を使った会員向けの報告会が開催されました。朝倉前会長から定時総会の報告と新役員への委嘱職務の報告があり、北本前運営委員長から令和 2 年度のフェロー、功績賞、学会賞、進歩賞、女性科学者の推戴者及び授与者の紹介がありました。そして会長の象徴である理事会議長のゲーベルが朝倉前会長から北本新会長へ引き継がれました。令和 2 年度の名誉会員、フェロー推戴者、および功績賞、進歩賞、女性科学者奨励賞の受賞者は以下の通りです。

- ① 日本油化学会フェロー  
慶應義塾大学名誉教授 松村 秀一 氏
- ② 日本油化学会功績賞  
元・日本油化学会事務局長 清宮 章 氏
- ③ 日本油化学会学会賞  
産業技術総合研究所 中国センター所長 北本 大 氏
- ④ 日本油化学会 進歩賞  
産業技術総合研究所 化学プロセス研究部門 平 敏彰 氏
- ⑤ 日本油化学会 進歩賞  
名城大学理工学部 本田 真己 氏
- ⑥ 日本油化学会女性科学者奨励賞  
お茶の水女子大学基幹研究院 伊村 くらら 氏

## 2.2 理事会

理事会を7回開催し、令和 2 年度決算案の承認、令和 3 年度役員として会長、運営委員長・功績賞等推薦委員長、企画・部会統括委員長、第 60 回年会実行委員長としての副会長 3 名、そして総務委員長、オレオサイエンス編集委員長、JOS 編集委員長、国際交流委員長、関東支部長、東海支部長、関西支部代表、事務局長としての理事 8 名、監事 3 名の選定と、専門部会長の委嘱を行い、令和 3 年度の運営体制を確立しました。また令和 3 年度の推戴・表彰では、日本油化学会フェロー、功績賞、女性科学者奨励賞の選考を行い、また日本油化学会学会賞、工業技術賞、進歩賞については学会賞等選考委員会の提案を承認し決定しました。

公益事業の運営は、コロナ禍 2 年目を迎えることとなりましたが、年会・講演会等の開催方法を検討して、昨年度実施した繰り返し視聴が可能な録画講演に加えて、討論の活性化につながるライブでの TV 会議システムを活用して、特別講演や一般講演の質疑応答を開催しました。特別講演は年会企画運営委員会や専門部会と連携し

て注目度が高いテーマを企画し、シンポジウム形式で開催して参加者の満足度が高い評価を得ることができました。また令和4年度に計画している創立70周年記念事業のthe 2nd World Congress on Oleo Science, WCOS 2022は、COVID-19の感染状況を慎重に考慮して、予定していた釧路開催をVirtual開催に変更することを決断しました。そしてVirtual開催であっても会員が求めるオレオサイエンスの将来を討論できる会議にするため、研究の完成度よりも斬新な切り口を重視した特別講演を企画・選定して、60件を超える特別講演を確保し盛会を期しております。またシステム面では、海外との安定な通信が可能なTV会議システムでの討論や、この様子を即日録画配信できるオン・デマンドシステムを使って、時差や言葉の壁を小さくして活発な討論ができるプログラムとしました。

## 2.3 運営委員会及び業務委員会等開催状況

運営委員会は4回開催し、各業務委員会は次の回数を開催した。

総務委員会(TV会議)	4回	国際交流委員会(TV会議)	3回
財務委員会(TV会議)	2回	企画・部会統括委員会全体会議(TV会議)	2回
企画・部会統括委員会(TV会議)	3回	学会賞等選考委員会(TV会議)	2回
規格試験法委員会	4回	オレオサイエンス編集委員会(TV会議)	4回
役員等候補者推薦委員会(メール審議を含む)	2回	JOS編集委員会(メール審議)	2回
日本油化学会創立70周年記念準備委員会	2回	功績賞等推薦委員会	2回

運営委員会は、当会の継続的な活性化・財務基盤の安定を図るべく検討を進め、第60回年会はVirtual開催でも活発な技術討論ができる年会を目指した企画・運営を検討しました。また、名誉会員・フェロー推戴及び功績賞等の候補者を選定して理事会に提案して承認を得ました。

総務委員会は、コロナ禍のために開催を2年間見送った、会員交流の場であった総会後の懇親会を安全に開催する企画を検討し、表彰者と特別講演の演者を油脂工業会館に招いて受賞式と講演会を開催してその様子をTV会議システムで同時配信するハイフレックス開催とする提案を理事会で承認されました。また、停年で研究の第一線を引退して退会するシニア層会員の皆様が楽しめる会となるよう、永年会員制度とシニア層会員の特典を見直してその改善案を理事会に提案しました。財務委員会は、令和3年度決算(案)と令和4年度予算書(案)を作成して理事会の承認を得ました。企画・部会統括委員会は、コロナ禍でも安全に講演会等を開催するVirtualシステムを確立し、本部・支部・部会のセミナー等を支援しました。規格試験法委員会は、優れた油脂分析法の検討を行い、またその普及のためにVirtualシステムを使って基準油脂分析試験法セミナーを開催しました。また編集委員会は、「Journal of Oleo Science」誌及び「オレオサイエンス」誌の編集・発行(Web上公開も含む)を行いました。更にJOS編集委員会は、質の高い研究論文を集めるために、公的助成金を受けた研究成果の投稿先として日米欧で指定されているオープンアクセス誌の認定となるDictionary of Open Access Journal, DOAJへの掲載が4月に認められ運営を開始しました。

## 3 事業報告

### 3.1 (公1)研究成果の公開、人材教育、研究の奨励及び業績の表彰を行う事業

#### 3.1.1 研究成果の公開

##### 3.1.1.1 第60回日本油化学会年会

日本油化学会第60回年会は、東海支部および本部が中心となり令和3年9月6日(月)から9月11日(土)の6日間開催しました。本年会も、コロナ対応を迫られ全面的なVirtual開催を余儀なくされました。しかし今回は、Virtual開催でも緊張感のある発表や議論ができるライブ形式を組み込みました。具体的には、特別講演として、オレオサイエンスの各専門分野が主催したシンポジウムや、東海支部主催のテーマシンポジウムと市民講座をライブ配信し、各分野最先端の話題について、講師と参加者が顔を合わせて活発に討論しました。また、大会5日目の9月10日(金)には、東海支部の幹事および朝倉副会長が座長を担当して一般発表の質疑応答をライブで行いました。関連分野の発表者が少人数に分かれて座長と一般参加者が待つブレイクアウトルームに入り、緊張しながらも熱い質疑と議論が実施されました。座長、発表者、質問者ともにすべてビデオをオンにして顔を合わせて直接対話をすることで、発言者の熱量が伝わる臨場感のある討論が実現しました。研究発表の審査では、座長に加えて学術専門委員の先生方、専門部会の先生方、合計40名の協力を頂き、1件当たり3名が審査する公正な評価結果を得ることができました。また一般発表では、高校生による石鹼に関する英語での発表がありました。研究成果を専門の学会で発表し、将来研究者を目指す糧にしたいという動機からの挑戦でした。当学会が高校生との接点を考える良い機会となりました。

会期	: 令和3年9月6日(月)～11日(土)
会場	: 学会事務局を拠点とする Virtual 開催
内容	: ①参加者総数 418名
	②講演件数: 発表総数 143題
	一般公演: 112題
	・口頭講演 81題
	・ショートプレゼンテーション 31題
	依頼公演 31題
	・テーマシンポジウム 2題
	・市民講座 2題
	・受賞講演 6題
	・会改革推進委員会シンポジウム 5題
	・専門部会シンポジウム 11題
	・講演会 5題

年会の全参加者は418名、全講演数は112件でした。留学生の一般口頭発表は、前年の5件から1件に減りコロナ禍の影響が出ていました。英語発表件数も前年16件から8件に減りました。優れた若手研究者に贈るヤングフェロー賞の受賞者は3名、英国王立化学会(The Royal Society of Chemistry, RSC)と共同で贈る国際発信力に優れた英語発表に贈るRSC Advances 賞を1名に授与しました。また学生の優れた口頭発表に贈る学生奨励賞を10名に授与しました。そしてポスター発表の代わりに設定したショートプレゼンテーションの発表では、優れた7名を選考してショートプレゼンテーション賞を授与し、研究功績を讃えました。

### 3.1.1.2 日本油化学会会誌(論文誌・会員誌)の発行

#### (1)「Journal of Oleo Science」誌 第70巻第1号～12号総ページ数1,860ページ

本誌は、本年4月に Dictionary of Open Access Journal, DOAJ に掲載され、名実ともに一流のオンラインジャーナルとして認められました。論文誌として、冊子版と電子版を発行しており、本年度の第70巻は前年に比べ原著論文は172→183件に増え、特集号(11月: International Symposium on Lipids and Food Ingredients for Health Promotion. 4件(総説4件)掲載)に関する Editorial Message を1件と、Annual Index を掲載しました。また、ページ外では、投稿規定(1号. 6号に DOAJ 掲載を契機に改定したITA掲載)、入会案内等を掲載しました。なお、Impact Factor (IFと略)は、2020年は1.304→1.601、5年平均IFは1.475→1.768と大きく上昇し引用回数が高まりました。J-STAGE(電子版)では、総説はXML形式でも公開され、WEBではカラー公開を原則としています。冊子のカラー印刷は希望者のみとしました。電子附属(Supporting Information)の公開と Graphical Abstract(全投稿に義務化)の登載、および早期公開、を継続推進しました。また新たに、CCライセンスを取り入れ、CCBYもしくはCCBY-SAの選定を義務化し、さらにORCIDの記載を強く推奨して、それぞれの掲載を開始しました。なお、投稿数は451件で過去最高となり、質的にも外国人の編集委員10人の参画で論文の多様化に対応しています。

掲載内容	報文	161件
	ノート・速報	10件
	総説	12件

#### (2)「オレオサイエンス」誌 第21巻第1号～12号総ページ数554ページ

特集12件(各特集の序言も掲載)を企画したほか、巻頭言、表彰、会務、若手研究者紹介、Topics in Oleo Science、主催報告、学会情報、研究室紹介、寄稿、JOS投稿論文(Graphical Abstract掲載)、書評、会員のひろばなど、会員に役立つ情報を中心とした会員向けの学術情報誌として編集しました。また、総説については、編集委員の査読による一層の質的向上を図り、図はできる限りカラー印刷としました。カラーページのコストは、図を集約するなどして削減に務めました。ページ外では、会告(色紙印刷とした年会プログラムを含む)、目次等を、290ページ編集しました。総説類のJ-STAGE公開は本誌発行の直後に行っております。主な掲載内容の件数は以下の通りです。油脂関連情報の特許情報は、まとめて1件と計算しています。

掲載内容	特集総説・受賞総説・総説 Topics	37 件
	若手研究者紹介	3 件
	Topics in Oleo Science	1 件
	油脂関連情報	44 件

その他に巻頭言, 特集序言, 表彰, 会務, 主催報告, 学会情報, 研究室紹介, 寄稿, JOS 投稿論文, 書評, 会員のひろば, 資料などを掲載しました。

### 3.1.2 人材教育

本部主催の人材育成事業は, 企画・部会統括委員会を中心に, 毎年, フレッシュマンセミナー(油脂), フレッシュマンセミナー(界面)を開催しています。前年は従来の対面講義を中止し, Virtual配信の設備を整えた年会で開講しました。本年は, 講演は油脂で6講座, 界面は関西支部と合同開催し12講座開講して講演ビデオを配信し, 講師と直接質疑ができるTV会議システムを設定しました。TV会議システムは受講人数を制限する必要がなく, 申込者すべての方に受講機会を提供することができました。今回の受講者数は油脂で126名, 界面で182名となり, 対面開催のときの約1.3倍に増えました。ビデオ講演は, 受講のための出張が不要で, 好きな時間に繰り返し再生して理解を深めることができると好評でした。また会期を2週間と十分とれるため, 教本記載内容をほぼすべて講義することができました。中堅研究者向けには, 油脂実践講座と界面実践講座を開講し, 製品開発の現場で役立つ油脂と界面の考え方や, 測定法を講演しました。本講座もオンデマンドでビデオ配信し, 質疑はTV会議システムを使い行い, 受講者の満足度が高い結果となりました。

### 3.1.3 研究の奨励・業績の表彰

本会では, 油脂・脂質, 界面活性剤及び関連分野の科学と技術を対象としたオレオサイエンスの進歩を奨励し, 人材を育成しています。著しい成果をあげた研究者を表彰してその功績を学会ホームページ, 会誌, 総会, 年会等で紹介し栄誉を讃えています。令和3年度の推戴・表彰者は本報告書の総会の項に記載した6名。JOS論文については, 編集員が優秀と認めた論文のファーストオーサー2名に第24回JOSエディター賞を授与し, 最も引用数の多い論文のファーストオーサー2名に第16回インパクト賞を, そして最も投稿数の多いファーストオーサー3名に第12回JOSベストオーサー賞を授与しました。オレオサイエンス誌については, 編集委員会が優秀と認めた総説3件の著者5名に第20回オレオサイエンス賞を授与しました。

## 3.2 (公2) 評価・試験法の標準化と普及を行う事業

油脂分析法の開発は, 食品の乳化剤として知られている卵黄レシチンや大豆レシチンのリン脂質の特性がその組成に由来していることから, 各リン脂質を定量する方法として<sup>31</sup>P-NMRに注目しました。本法が制定されれば, 各リン脂質に由来する化学シフトのシグナル強度からP含量を求め, 従来の液体クロマトグラフィー法のような標準品が不要で1回の測定で定量が可能となります。

油脂や食品の分析法に関する基礎とステップアップを習得頂くために開催している「基準油脂分析試験法セミナー」を10月4~8日にVirtual開催しました。第20回目となる今回は, トランス脂肪酸の問題, 食品機能成分の脳センシングによる人への効果測定や分析法等の7演題で構成し, 基準油脂分析試験法の普及に努めました。

## 3.3 (公3) 地域における学術の振興と普及を行う事業

例年, (一財)油脂工業会館の共催を得て各都市で開催している地区講演会では, 一般市民を対象としてオレオサイエンスの知見を振興・普及しています。今年度はコロナ禍であったことからVirtualで4回開催しました。1件目は6月に大阪府大阪市大阪教育大学で開催した油のおいしさに関する講演会(参加者105名), 2件目は11月に長野県上田市信州大学で開催した油脂の分散と応用技術に関する講演会(参加者45名), 3件目は12月に岡山県岡山市岡山大学で開催した高機能ゲルに関する講演会(参加者65名), 4件目は東京八王子市生涯学習センターで開催した食用油の健康に関する講演会(参加者37名)を開催して各地域でのオレオサイエンスの知見普及に務めました。

これら講演会・セミナーの企画を充実させるため, 幹事会等を下記のとおり開催しました。

[支部委員会等の開催]

・関東支部 常任幹事会3回, 幹事会1回



- ・東海支部 常任幹事会 4 回, 支部合同役員会 1 回, 支部将来計画委員会 1 回
- ・関西支部 常任幹事会 3 回, 幹事会合同会議 3 回

[支部の行事開催]

各支部による講演会, セミナー等の行事は, 延 14 日開催し, 参加者数は延 415 名を数えました。ご出講いただいた講師の先生方は延 36 名。

・関東支部	開催日数	6 日	参加者数	65 名	講師	5 名
・東海支部	開催日数	4 日	参加者数	147 名	講師	17 名
・関西支部	開催日数	4 日	参加者数	203 名	講師	14 名

### 3.4 (公4)学術専門分野の活性化事業

学術専門分野の活性化については, オレオマテリアル部会, 界面科学部会, 洗浄・洗剤部会, ライフサイエンス・産業技術部会およびオレオナノサイエンス部会が活動を展開し, それぞれの専門分野を深耕した。また, マスターズクラブは, 学際的な視点・分野横断的な視点も加えた活動を展開しています。

専門部会は, オレオサイエンスの分野で活躍中の研究者を第 60 回年会に招き, 各専門分野における話題のテーマでシンポジウムを開催し, 年会参加者にオレオサイエンスのこれからの将来を考える機会を提供しました。この他, オレオマテリアル部会は, 機能性分子の合成, 新材料創製および環境問題等において優れた業績を上げた者を選定し 2 名にオレオマテリアル賞を授与しました。界面科学部会は, 秋季セミナー, 東海, 九州の各地区と共催で講演会を開催しました。洗浄・洗剤部会は, 第 53 回洗浄に関するシンポジウムを 10 月に Virtual 開催しました。

各支部及び各専門部会等は, それぞれのリーダーの指導の下, 独自に運営を行っているが, 企画・部会統括委員長が年2回開催する全体会議で情報交換などを行い, 必要に応じスケジュール等の調整を行っています。

本年度事業は以上の通りであるが, 令和 3 年度事業報告には, 「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条 第 3 項に規定される「事業報告の内容を補足する重要な事項」はないので, 事業報告の附属明細書は作成していない。

(第 452 回 理事会決議)

## 貸借対照表

令和4年2月28日現在

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増減
<b>I 資産の部</b>			
<b>1. 流動資産</b>			
現金預金	36,529,790	31,671,771	4,858,019
預け金	453,688	0	453,688
出版物	3,781,288	5,150,024	△ 1,368,736
仮払消費税等	0	495,100	△ 495,100
流動資産合計	40,764,766	37,316,895	3,447,871
<b>2. 固定資産</b>			
<b>(1) 基本財産</b>			
投資有価証券	33,343,822	31,857,729	1,486,093
普通預金	7,056,178	8,542,271	△ 1,486,093
基本財産合計	40,400,000	40,400,000	0
<b>(2) 特定資産</b>			
退職給付引当資産	8,964,442	8,254,242	710,200
役員退職慰労引当資産	128,120	0	128,120
新規国際会議開催積立資産	9,275,913	9,275,913	0
国際会議開催積立資産(2022)	1,000,000	1,000,000	0
特定・国際会議開催積立資産(2027)	2,000,000	0	2,000,000
新規出版準備積立資産	2,500,000	2,500,000	0
新規記念事業積立資産	2,000,000	2,000,000	0
特定資産合計	25,868,475	23,030,155	2,838,320
<b>(3) その他固定資産</b>			
敷金・保証金	1,294,000	1,294,000	0
その他固定資産合計	1,294,000	1,294,000	0
固定資産合計	67,562,475	64,724,155	2,838,320
資産合計	108,327,241	102,041,050	6,286,191
<b>II 負債の部</b>			
<b>1. 流動負債</b>			
前受会費	7,909,169	8,076,668	△ 167,499
前受会費(次々年度)	15,000	10,000	5,000
預り金(税金・社会保険)	80,143	226,140	△ 145,997
流動負債合計	8,004,312	8,312,808	△ 308,496
<b>2. 固定負債</b>			
退職給付引当金	8,964,442	8,254,242	710,200
役員退職慰労引当金	128,120	0	128,120
固定負債合計	9,092,562	8,254,242	838,320
負債合計	17,096,874	16,567,050	529,824
<b>III 正味財産の部</b>			
<b>1. 指定正味財産</b>			
指定正味財産合計	27,600,000	27,600,000	0
(うち基本財産への充当額)	( 27,600,000)	( 27,600,000)	( 0)
(うち特定資産への充当額)	( 0)	( 0)	( 0)
<b>2. 一般正味財産</b>			
一般正味財産合計	63,630,367	57,874,000	5,756,367
(うち基本財産への充当額)	( 12,800,000)	( 12,800,000)	( 0)
(うち特定資産への充当額)	( 16,775,913)	( 14,775,913)	( 2,000,000)
正味財産合計	91,230,367	85,474,000	5,756,367
負債及び正味財産合計	108,327,241	102,041,050	6,286,191

# 正味財産増減計算書

令和3年3月1日から令和4年2月28日まで

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
<b>I 一般正味財産増減の部</b>			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	1,989,443	40,074	1,949,369
基本財産(一般)受取利息	258,514	79	258,435
基本財産(指定)受取利息振替額	1,730,929	39,995	1,690,934
特定資産運用益	460	939	△ 479
特定資産(一般)受取利息	460	929	△ 469
特定資産(指定)受取利息振替額	0	10	△ 10
受取会費	31,476,499	31,792,167	△ 315,668
正会員会費	8,756,666	8,988,334	△ 231,668
永年会員会費	170,833	172,500	△ 1,667
学生会員会費	323,333	348,667	△ 25,334
アジア海外会員会費	69,000	79,333	△ 10,333
法人会員会費	22,156,667	22,203,333	△ 46,666
事業収益	25,789,740	16,963,105	8,826,635
年会収益	6,335,000	6,532,500	△ 197,500
論文誌等発行収益	8,322,180	8,075,705	246,475
講演会・セミナー収益	9,308,700	599,000	8,709,700
出版物頒布収益	1,823,860	1,755,900	67,960
受取補助金等	2,400,007	2,500,006	△ 99,999
日本学術振興会・科学研究費補助金	2,400,007	2,500,006	△ 99,999
受取寄付金	3,200,000	3,300,000	△ 100,000
油脂工業会館	3,000,000	3,000,000	0
石鹸洗剤工業会	200,000	200,000	0
受取寄付金振替額	0	100,000	△ 100,000
雑収益	365,887	3,692,999	△ 3,327,112
受取利息	347	414	△ 67
持続化給付金	0	2,000,000	△ 2,000,000
多額支援給付金	0	1,225,836	△ 1,225,836
雑収益	365,540	466,749	△ 101,209
経常収益計	65,222,036	58,289,290	6,932,746
(2) 経常費用			
事業費	47,971,116	43,907,792	4,063,324
役員報酬	60,806	60,000	806
給料手当	11,575,050	11,690,626	△ 115,576
退職給付費用	478,110	493,289	△ 15,179
役員退職慰労引当金繰入額	64,060	0	64,060
福利厚生費	1,673,258	1,585,959	87,299
旅費交通費	5,152	2,139	3,013
通信運搬費	426,971	407,589	19,382
消耗品費	450,088	172,245	277,843
印刷製本費	1,411,730	608,110	803,620
光熱水料費	58,340	63,670	△ 5,330
賃借料	2,381,472	2,381,472	0
リース料	696,150	691,556	4,594
HP維持管理費用	156,200	158,400	△ 2,200
年会費用	3,783,459	3,380,857	402,602
国際会議WCOS2022費用	76,408	854,210	△ 777,802
国際会議交流費用	48,663	120,000	△ 71,337
講演会・セミナー費用	3,190,143	1,028,820	2,161,323
論文誌等発行費用	19,247,051	17,522,592	1,724,459
表彰費用	916,905	1,303,778	△ 386,873
会議費	415,282	105,317	309,965
租税公課	360,100	984,500	△ 624,400
支払手数料	295,609	200,701	94,908
雑費	200,109	91,962	108,147
管理費	11,494,553	11,406,665	87,888
役員報酬	60,806	60,000	806
給料手当	7,216,203	7,303,528	△ 87,325
退職給付費用	232,090	244,510	△ 12,420
役員退職慰労引当金繰入額	64,060	0	64,060
福利厚生費	683,113	661,294	21,819
旅費交通費	3,093	1,283	1,810
通信運搬費	219,806	204,575	15,231
消耗品費	270,053	103,347	166,706
印刷製本費	25,796	36,159	△ 10,363
光熱水料費	35,005	38,203	△ 3,198
賃借料	1,428,884	1,428,884	0
リース料	417,690	414,934	2,756
HP維持管理費用	82,500	113,760	△ 31,260
会議費	409,645	369,590	40,055
諸会費	189,500	309,500	△ 120,000
支払手数料	69,341	64,435	4,906
雑費	86,968	52,663	34,305
経常費用計	59,465,669	55,314,457	4,151,212
評価損益等調整前当期経常増減額	5,756,367	2,974,833	2,781,534
基本財産評価損益等	0	0	0
特定資産評価損益等	0	0	0
投資有価証券評価損益等	0	408,897	△ 408,897
評価損益等計	0	408,897	△ 408,897
当期経常増減額	5,756,367	3,383,730	2,372,637
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
他会計振替額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	5,756,367	3,383,730	2,372,637
一般正味財産期首残高	57,874,000	54,490,270	3,383,730
一般正味財産期末残高	63,630,367	57,874,000	5,756,367
<b>II 指定正味財産増減の部</b>			
受取寄付金			
基本財産運用益	1,730,929	39,995	1,690,934
基本財産(指定)受取利息	1,730,929	39,995	1,690,934
特定資産運用益	0	10	△ 10
特定資産(指定)受取利息	0	10	△ 10
一般正味財産への振替額	△ 1,730,929	△ 140,005	△ 1,590,924
基本財産(指定)受取利息振替額	△ 1,730,929	△ 39,995	△ 1,690,934
特定資産(指定)受取利息振替額	0	△ 10	10
バスターオナー賞振替額	0	△ 100,000	100,000
当期指定正味財産増減額	0	△ 100,000	100,000
指定正味財産期首残高	27,600,000	27,700,000	△ 100,000
指定正味財産期末残高	27,600,000	27,600,000	0
<b>III 正味財産期末残高</b>	91,230,367	85,474,000	5,756,367

# 正味財産増減計算書内訳表

令和3年3月1日から令和4年2月28日まで

(単位: 円)

科目	公益目的事業会計				共通	小計	法人会計	内部取引 控除	合計
	公1: 研究成果 公開, 教育, 研究奨励, 表彰	公2: 評価・試験 法の標準化・ 普及	公3: 地域にお ける学術振興・ 普及	公4: 学術専門 分野の活性化					
<b>I 一般正味財産増減の部</b>									
<b>1. 経常増減の部</b>									
(1) 経常収益									
基本財産運用益	1,989,443	0	0	0	0	1,989,443	0	0	1,989,443
基本財産(一般)受取利息	258,514	0	0	0	0	258,514	0	0	258,514
基本財産(指定)受取利息振替額	1,730,929	0	0	0	0	1,730,929	0	0	1,730,929
特定資産運用益	316	61	9	11	0	397	63	0	460
特定資産(一般)受取利息	316	61	9	11	0	397	63	0	460
特定資産(指定)受取利息振替額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取会費	0	0	0	0	15,738,251	15,738,251	15,738,248	0	31,476,499
正会員会費	0	0	0	0	4,378,333	4,378,333	4,378,333	0	8,756,666
永年会員会費	0	0	0	0	85,417	85,417	85,416	0	170,833
学生会員会費	0	0	0	0	161,667	161,667	161,666	0	323,333
アジア海外会員会費	0	0	0	0	34,500	34,500	34,500	0	69,000
法人会員会費	0	0	0	0	11,078,334	11,078,334	11,078,333	0	22,156,667
事業収益	21,709,220	2,163,820	690,700	1,226,000	0	25,789,740	0	0	25,789,740
年会収益	6,335,000	0	0	0	0	6,335,000	0	0	6,335,000
論文誌等発行収益	8,322,180	0	0	0	0	8,322,180	0	0	8,322,180
講演会・セミナー収益	6,792,000	600,000	690,700	1,226,000	0	9,308,700	0	0	9,308,700
出版物頒布収益	260,040	1,563,820	0	0	0	1,823,860	0	0	1,823,860
受取補助金等	2,400,007	0	0	0	0	2,400,007	0	0	2,400,007
日本学術振興会・科学研究費補助金	2,400,007	0	0	0	0	2,400,007	0	0	2,400,007
受取寄付金	2,200,000	0	1,000,000	0	0	3,200,000	0	0	3,200,000
油脂工業会館	2,000,000	0	1,000,000	0	0	3,000,000	0	0	3,000,000
石鹸洗剤工業会	200,000	0	0	0	0	200,000	0	0	200,000
受取寄付金振替額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
雑収益	327,503	31,847	675	879	0	360,904	4,983	0	365,887
受取利息	131	21	24	66	0	242	105	0	347
雑収益	327,372	31,826	651	813	0	360,662	4,878	0	365,540
経常収益計	28,626,489	2,195,728	1,691,384	1,226,890	15,738,251	49,478,742	15,743,294	0	65,222,036
(2) 経常費用									
事業費	39,624,172	3,124,567	2,514,729	2,707,648	0	47,971,116	0	0	47,971,116
役員報酬	30,403	12,161	12,161	6,081	0	60,806	0	0	60,806
給料手当	7,979,040	1,443,469	994,010	1,158,531	0	11,575,050	0	0	11,575,050
退職給付費用	363,060	46,020	23,010	46,020	0	478,110	0	0	478,110
役員退職慰労引当金繰入額	32,030	12,812	12,812	6,406	0	64,060	0	0	64,060
福利厚生費	1,162,323	159,413	77,773	273,749	0	1,673,258	0	0	1,673,258
旅費交通費	3,607	618	412	515	0	5,152	0	0	5,152
通信運搬費	277,372	83,198	29,767	36,634	0	426,971	0	0	426,971
消耗品費	315,061	54,011	36,007	45,009	0	450,088	0	0	450,088
印刷製本費	835,263	568,728	3,440	4,299	0	1,411,730	0	0	1,411,730
光熱水料費	40,838	7,001	4,667	5,834	0	58,340	0	0	58,340
賃借料	1,667,030	285,777	190,518	238,147	0	2,381,472	0	0	2,381,472
リース料	487,305	83,538	55,692	69,615	0	696,150	0	0	696,150
HP維持管理費用	114,950	16,500	11,000	13,750	0	156,200	0	0	156,200
年会費用	3,783,459	0	0	0	0	3,783,459	0	0	3,783,459
国際会議WCOS2022費用	76,408	0	0	0	0	76,408	0	0	76,408
国際会議交流費用	48,663	0	0	0	0	48,663	0	0	48,663
講演会・セミナー費用	1,161,013	244,106	1,028,128	756,896	0	3,190,143	0	0	3,190,143
論文誌等発行費用	19,247,051	0	0	0	0	19,247,051	0	0	19,247,051
表彰費用	916,905	0	0	0	0	916,905	0	0	916,905
会議費	406,151	0	8,416	715	0	415,282	0	0	415,282
租税公課	281,557	55,273	4,315	18,955	0	360,100	0	0	360,100
支払手数料	257,859	14,748	11,005	11,997	0	295,609	0	0	295,609
雑費	136,824	37,194	11,596	14,495	0	200,109	0	0	200,109
管理費	0	0	0	0	0	0	11,494,553	0	11,494,553
役員報酬						60,806	0	0	60,806
給料手当						7,216,203	0	0	7,216,203
退職給付費用						232,090	0	0	232,090
役員退職慰労引当金繰入額						64,060	0	0	64,060
福利厚生費						683,113	0	0	683,113
旅費交通費						3,093	0	0	3,093
通信運搬費						219,806	0	0	219,806
消耗品費						270,053	0	0	270,053
印刷製本費						25,796	0	0	25,796
光熱水料費						35,005	0	0	35,005
賃借料						1,428,884	0	0	1,428,884
リース料						417,690	0	0	417,690
HP維持管理費用						82,500	0	0	82,500
会議費						409,645	0	0	409,645
諸会費						189,500	0	0	189,500
支払手数料						69,341	0	0	69,341
雑費						86,968	0	0	86,968
経常費用計	39,624,172	3,124,567	2,514,729	2,707,648	0	47,971,116	11,494,553	0	59,465,669
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 10,997,683	△ 928,839	△ 823,345	△ 1,480,758	15,738,251	1,507,626	4,248,741	0	5,756,367
基本財産評価損益等						0	0	0	0
特定資産評価損益等						0	0	0	0
投資有価証券評価損益等						0	0	0	0
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	△ 10,997,683	△ 928,839	△ 823,345	△ 1,480,758	15,738,251	1,507,626	4,248,741	0	5,756,367
<b>2. 経常外増減の部</b>									
(1) 経常外収益									
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用									
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 10,997,683	△ 928,839	△ 823,345	△ 1,480,758	15,738,251	1,507,626	4,248,741	0	5,756,367
一般正味財産期首残高									57,874,000
一般正味財産期末残高									63,630,367
<b>II 指定正味財産増減の部</b>									
受取寄付金									
基本財産運用益	1,730,929								1,730,929
基本財産(指定)受取利息	1,730,929								1,730,929
特定資産運用益	0								0
特定資産(指定)受取利息	0								0
一般正味財産への振替額	△ 1,730,929								△ 1,730,929
基本財産(指定)受取利息振替額	△ 1,730,929								△ 1,730,929
特定資産(指定)受取利息振替額	0								0
当期指定正味財産増減額	0								0
指定正味財産期首残高	27,600,000								27,600,000
指定正味財産期末残高	27,600,000								27,600,000
<b>III 正味財産期末残高</b>	91,230,367								91,230,367

(注)当法人は、貸借対照表を公益目的事業会計と法人会計に区分していないため、一般・指定正味財産期首残高及び一般・指定正味財産期末残高、並びに正味財産期末残高は合計欄に記載しております。

## 財務諸表に対する注記

### 1. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法  
    その他有価証券・・・時価評価法を採用している。
- (2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法  
    出版物・・・先入先出法によっている。
- (3) 引当金の計上基準  
    退職給付引当金・・・職員の退職給付の支給に備えるため、期末自己都合要支給額に相当する金額を計上している。  
    役員退職慰労引当金・・・役員退職慰労金の支給に備えるため、本会役員退職慰労金支給規則に基づく期末要支給額を計上している。
- (4) 消費税等の会計処理  
    消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

## 2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
投資有価証券	31,857,729	1,486,093	0	33,343,822
普通預金	8,542,271	-1,486,093	0	7,056,178
小計	40,400,000	0	0	40,400,000
特定資産				
退職給付引当資産	8,254,242	710,200	0	8,964,442
役員退職慰労引当資産	0	128,120	0	128,120
新規国際会議開催積立資産	9,275,913	0	0	9,275,913
国際会議開催積立資産(2022)	1,000,000	0	0	1,000,000
特定・国際会議開催積立資産(2027)	0	2,000,000	0	2,000,000
新規出版準備積立資産	2,500,000	0	0	2,500,000
新規記念事業積立資産	2,000,000	0	0	2,000,000
小計	23,030,155	2,838,320	-	25,868,475
合計	63,430,155	2,838,320	-	66,268,475

(注1) ベストオーサー賞は、Journal of Oleo Science誌への投稿数を高めることを目的に社団法人日本油化学会 元・事務局長 太田昌男氏の寄付金（100万円）をもとに設立された。本寄付金は、2009年度から2019年度の表彰において副賞に供して終了した。本賞の投稿数を高める効果が定着していることから、2020年度からの表彰は会の予算を充当して継続することを第436回理事会で決議した。

(注2) 基本財産の内容は次のとおりである。

(単位：円)

基本金	1,000,000
研究奨励基金	26,600,000
表彰事業基金	12,800,000
合計	40,400,000

### 3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
普通預金	7,056,178	0	(7,056,178)	0
投資有価証券	33,343,822	(27,600,000)	(5,743,822)	0
小 計	40,400,000	(27,600,000)	(12,800,000)	0
特定資産				
退職給付引当資産	8,964,442	0	0	(8,964,442)
役員退職慰労引当資産	128,120	0	0	(128,120)
新規国際会議開催積立資産	9,275,913	0	(9,275,913)	0
国際会議開催積立資産(2022)	1,000,000	0	(1,000,000)	0
特定・国際会議開催積立資産(2027)	2,000,000	0	(2,000,000)	0
新規出版準備積立資産	2,500,000	0	(2,500,000)	0
新規記念事業積立資産	2,000,000	0	(2,000,000)	0
小 計	25,868,475	0	(16,775,913)	(9,092,562)
合 計	66,268,475	(27,600,000)	(29,575,913)	(9,092,562)

### 4. その他有価証券の内訳並びに時価

(単位:円)

科目	時価
米国債	33,343,822
米ドルMMF	503,350
合 計	33,847,172

米国債、米ドルMMFの時価は、当期会計年度期末の為替115.47円/US\$を使用。

## 5. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位:円)

補助金等の名称	交付者	前期末 残高	当期 増加額	当期 減少額	当期末 残高	貸借対照表上の 記載区分
補助金						
科学研究費補助金	(独)日本学 術振興会	0	2,400,007	2,218,099	181,908	流動資産
合 計		0	2,400,007	2,218,099	181,908	

## 6. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

内容	金額
経常収益への振替額	
基本財産(指定)受取利息の振替	1,730,929
特定資産(指定)受取利息の振替	-
合 計	1,730,929

## 7. その他

(1) 引当金の明細

(単位:円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	8,254,242	710,200	—	—	8,964,442
役員退職慰労引当金	0	128,120	—	—	128,120

(2) 基本財産の内、研究奨励基金の寄付者一覧

桑田 勉	竹井 俊郎	川上八十太	佐藤 正典	上野 誠一	小森 三郎
浅原 照三	富山 新一	外山 修之	森 昭	松本 太郎	櫻井 洸
早野 茂夫	木村和三郎	池田 和夫	荻野 圭三	安田 耕作	北原 文雄
大場 健吉	田嶋 和夫	伊藤 俊洋	池田 功	各氏	



## 附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細  
財務諸表に対する注記に記載のとおりである。
  
2. 引当金の明細  
財務諸表に対する注記に記載のとおりである。

# 財産目録

令和4年2月28日現在

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
<b>(流動資産)</b>				
現金 預金	現金	手元保管	運転資金として	31,509
	預金	(普)三菱UFJ銀行八重洲通支店	運転資金として	7,641,212
		(普)三菱UFJ銀行八重洲通支店		640,226
		(普)みずほ銀行京橋支店		3,938,051
		(普)みずほ銀行八重洲口支店		1,316,032
		(普)三井住友銀行京橋支店		4,929,119
		(普)鹿児島銀行東京支店		2,789,490
		(普)鹿児島銀行東京支店		336,048
		(普)三菱UFJ信託銀行本店		171,011
		(普)三菱UFJ銀行八重洲通支店		181,908
		(定)鹿児島銀行東京支店		1,768,360
		SMBC日興証券・現金		1,872,248
		SMBC日興証券・米ドルMMF		503,350
		郵便振替貯金		4,001,394
		(普)三井住友銀行鎌ヶ谷支店		1,550,918
		(普)横浜銀行和田町支店		1,409,978
		(普)三井住友銀行日本橋東支店		1,870,171
		(普)三井住友銀行柏支店		197,426
		(普)三菱UFJ銀行下赤塚支店		240,196
		(普)千葉銀行柏西口支店		1,103,764
若手の会手元保管	37,379			
預け金・電子マネー	453,688			
出版物	『油脂・脂質の基礎と応用』改訂第3版	セミナーのテキスト等に使用	978,880	
	『界面と界面活性剤』改訂第2版3刷		1,473,288	
	『界面活性剤評価・試験法』改訂第二版		710,073	
	『基準油脂分析試験法2018年増補・改訂版 単体』		123,331	
『基準油脂分析試験法2018年増補・改訂版』フルセット		495,716		
仮払消費税等			0	
<b>流動資産合計</b>				<b>40,764,766</b>
<b>(固定資産)</b>				
<b>基本財産</b>				
投資有価証券	SMBC日興証券・ペイコクサイ	公益目的保有財産であり、運用益を	33,343,822	
	普通預金	SMBC日興証券・現金	公益目的事業の財源としている	7,056,178
<b>特定資産</b>				
退職給付引当資産	(定)鹿児島銀行東京支店	職員3名に対する退職金の支払に備えたもの	8,254,242	
	(定)三菱UFJ銀行八重洲通支店		710,200	
役員退職慰労引当資産	(定)三菱UFJ銀行八重洲通支店	兼務役員1名に対する退職金の支払に備えたもの	128,120	
新規国際会議開催積立資産	(定)鹿児島銀行東京支店	国際会議開催に備えたもの	9,275,913	
	(定)鹿児島銀行東京支店	国際会議開催(2022)に備えたもの	1,000,000	
	(定)鹿児島銀行東京支店	国際会議開催(2027)に備えたもの	2,000,000	
	(定)三菱UFJ銀行八重洲通支店	既出版物の改訂版出版に備えたもの	2,500,000	
新規記念事業積立資産	(定)三菱UFJ銀行八重洲通支店	周年記念事業実施に備えたもの	2,000,000	
<b>その他固定資産</b>				
敷金・保証金	(一財)油脂工業会館	公益目的保有財産及び管理運営の用に供している	1,294,000	
<b>固定資産合計</b>				<b>67,562,475</b>
<b>資産合計</b>				<b>108,327,241</b>
<b>(流動負債)</b>				
前受会費	前受会費	翌年度以降に到来する受取会費	7,909,169	
	前受会費(次々年度)	翌々年度以降に到来する受取会費	15,000	
	預り金(税金、社会保険)		80,143	
<b>流動負債合計</b>				<b>8,004,312</b>
<b>(固定負債)</b>				
退職給付引当金	退職給付引当金	職員3名に対する退職金の支払に備えたもの	8,964,442	
	役員退職慰労引当金	兼務役員1名に対する退職金の支払に備えたもの	128,120	
<b>固定負債合計</b>				<b>9,092,562</b>
<b>負債合計</b>				<b>17,096,874</b>
<b>正味財産</b>				<b>91,230,367</b>

# 令和 3 年度 監査報告

公益社団法人 日本油化学会  
会長 北本 大 殿

令和 4 年 3 月 16 日

公益社団法人 日本油化学会

監事 有村 隆志



監事 清宮 章



監事 野坂 直久



私達は、令和 3 年 3 月 1 日から令和 4 年 2 月 28 日までの事業年度における理事の職務の執行及び計算書類等の監査を行った。

監査の方法及びその内容と監査意見について次のとおり報告する。

## 1 監査の方法及びその内容

私達は、その職務を適切に遂行するために、理事及び使用人等との意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備を行い、以下の監査を行った。

### (1) 理事の職務の執行の監査について

理事会及びその他の重要な会議に出席し、理事及び使用人等から職務の執行状況についての報告を受け、必要に応じて説明を求め、業務及び財産等の状況を検討した。

### (2) 計算書類等の監査について

会計帳簿並びに関係書類の閲覧、その他必要と思われる監査手続を用いて、事業報告、計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録について検討した。

## 2 監査意見

監査の結果、私達の意見は次のとおりである。

(1) 理事の職務執行に関する不正行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はないと認める。

(2) 事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく報告しているものと認める。

(3) 計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

以 上

# 令和4年度 本部・支部役員 および 代議員

## 1. 本部役員

会 長	北本 大								
副会長	朝倉 浩一	岡野 知道	桂木 能久						
事務局長(常勤)	金子 行裕								
理 事	片山 詔久	清瀬 千佳子	後藤 直宏	柴田 攻	関根 知子				
	仲川 清隆	西脇 永敏	村岡 雅弘	宮原 令二	宮前 喜隆				
監 事	有村 隆志	清宮 章	野坂 直久						

## 2. 支部役員

関東支部	支部長 後藤 直宏	副支部長 戸堀 悦雄	支部監事 安増 毅
東海支部	支部長 片山 詔久	副支部長 八田 明生	支部監事 浅野 浩志
関西支部	支部長 三浦 芳樹	副支部長 村岡 雅弘	阿尾 信博
	支部監事 老田 達生		

## 3. 代議員

### 関東支部 定数(68名)― 代議員数(64名)

青山 敏明	朝倉 浩一	阿部 正彦	荒牧 賢治	有村 隆志	池田 郁男	今義 潤	岩井 秀隆
岩橋 慎夫	遠藤 泰志	大島 広行	太田 昌男	大部 一夫	大矢 勝	岡野 知道	岡本 亨
小山内州一	加藤 直	鎌田 正純	河合 武司	北本 大	清瀬千佳子	河野 善行	後藤 直宏
小島 浩一	小林 光一	小山 匡子	近藤 行成	坂本 一民	酒井 秀樹	佐藤 和恵	柴田 雅史
島崎 弘幸	杉山 圭吉	鈴木 一昭	鈴木 敏幸	高橋是太郎	高橋 政志	高橋美奈子	滝澤 靖臣
竹原 將博	戸堀 悦雄	仲川 清隆	野々村美宗	橋崎 要	原 節子	平田 芳明	深津 誠
別府 耕次	細川 雅史	前多 隼人	松村 秀一	松本 晁暎	三浦 靖	溝部 帆洋	三宅 深雪
宮澤 陽夫	宮下 和夫	宮原 令二	山岡 正和	横溝 和久	依田 恵子	米山 雄二	和田 俊

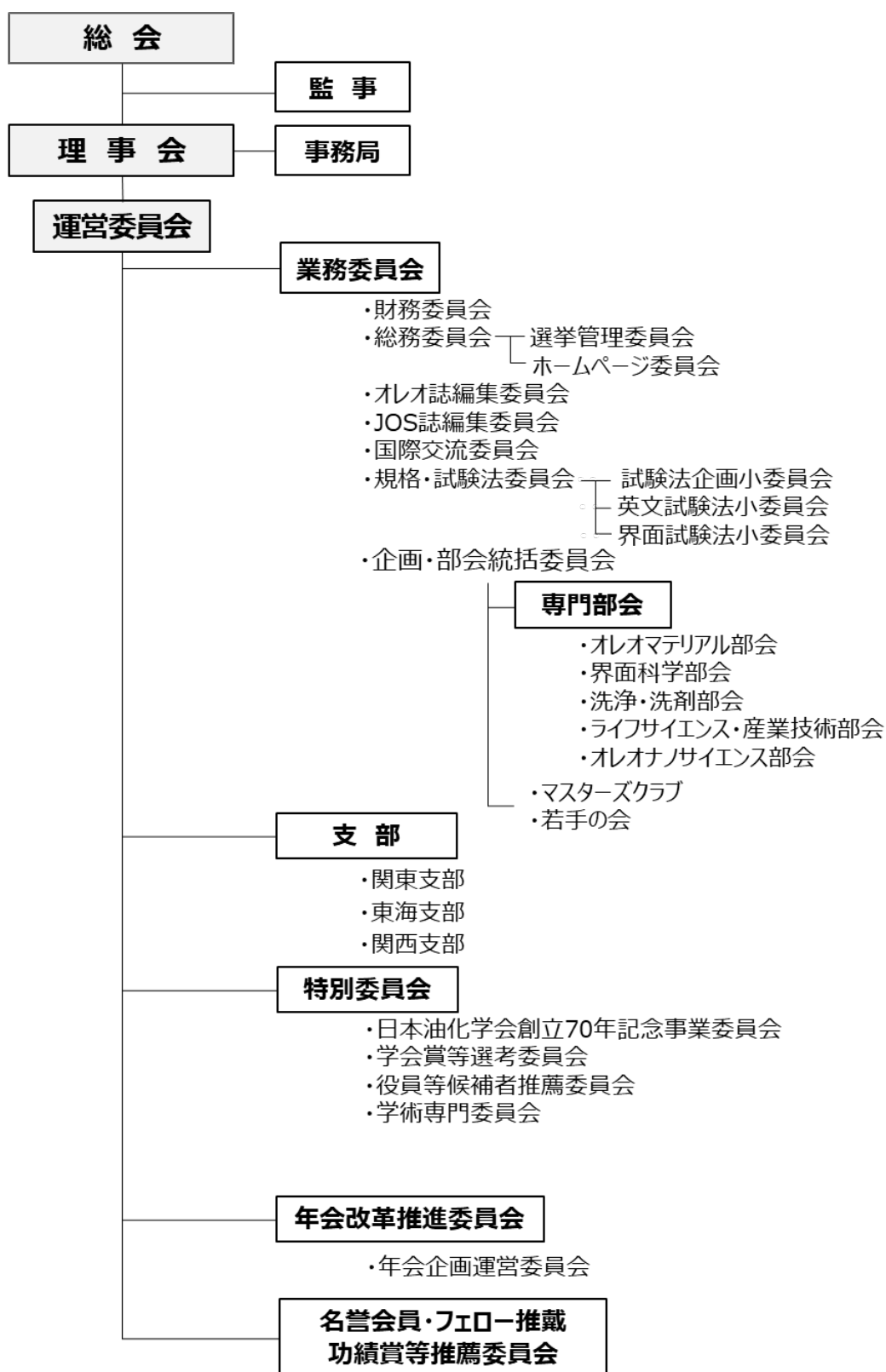
### 東海支部 定数(12名)― 代議員数(12名)

浅野 浩志	伊藤 芳郎	岩崎 雄吾	宇佐美久尚	片山 詔久	神戸 慎哉	纈纈 守	近藤 勝義
多賀圭次郎	田村 廣人	村瀬 由明	山本 靖				

### 関西支部 定数(40名)― 代議員数(40名)

井奥 加奈	石田 尚久	糸乘 前	今西 豊	岩岡 栄治	植田 光一	上畑 雅司	老田 達生
太田 明雄	岡村恵美子	小野 大助	懸橋 理枝	木田 敏之	木田 吉重	蔵本 暢浩	合谷 祥一
小松 満男	坂井 隆也	作山 秀	笹倉 敬司	柴田 攻	菅原 達也	關谷 次郎	武田 徳司
辻野 義雄	戸谷 永生	永尾 寿浩	中辻 洋司	中原 広道	西脇 永敏	萩森 政頼	藤谷 貫剛
益山 新樹	松村 康生	円山 圭一	宮澤 三雄	村岡 雅弘	山本 浩志	吉村 倫一	渡邊 義之

# 令和4年度 組織図



# 令和4年度事業計画

令和4年3月1日から令和5年2月28日まで

## ＜令和4年度の活動指針＞

- ① 将来構想委員会の提言「持続可能で活発な日本油化学会への脱皮」の実現を目指す。そしてオレオサイエンスを通してコロナ禍の時代を良い方向に導くことができるよう学会としての使命を果たす。
- ② 創立70周年記念事業として今年度開催する第2回世界オレオサイエンス会議(The 2nd World Congress on Oleo Science, WCOS 2022)は、コロナ感染状況を考慮しVirtual-Onlyで開催する。そして、Virtual会議を盛会とするために、世界で活躍中の科学者・技術者が登壇し、近未来の技術予測の場となるよう完成度より斬新性を重視した「トップカンファレンス」志向の国際会議を目指す。委員長は朝倉 浩一 現委員長が務める。なお予定していた釧路での開催計画は、創立75周年記念事業として2027年に延期して実施する。
- ③ 教育面では、若手会員の能力向上と会員増強を目指して従来から行っているフレッシュマンセミナー、実践講座、試験法セミナー、サマースクールなどのセミナーを開催する。前年度好評であったVirtual開催の参加形式に加えてin-person参加の機会も提供して利用者に役立つより魅力的で受講しやすい内容とする。さらに、WCOS 2022では優れた発表を表彰して学生や若手研究者の育成を図る。
- ④ オレオサイエンスの深耕と普及に関する事業は、これを担う専門部会と支部でコロナ禍下でも講演等の事業活動ができるよう、昨年整備したVirtualシステムを本部から提供する。
- ⑤ 学術論文誌 Journal of Oleo Science (JOS)は、一流のオープンアクセスジャーナルを扱う Dictionary of Open Access journal (DOAJ) に掲載されたことを弾みに投稿数と論文の質向上に務めて世界一流のジャーナルを目指す。また本年開催するWCOS 2022における選抜講演等の選りすぐりの特別講演を特集号として発刊し、更に今後も質の高い研究論文が集まるように布石を打つ。会員誌「オレオサイエンス」は、会員に役立つ学会情報、特にWCOSの話題づくりなどの提供を目的に、会員へはもちろん、国内外への敏速な情報発信に努める。
- ⑥ 社会貢献の一環として、一般財団法人油脂工業会館との共催で実施している市民講座(地区講演会)は、本年度も3支部が中心となりVirtual開催も併用して地方都市でのオレオサイエンス普及に努める。

## 1. 会務

### 1.1 総会

代議員を社員とする第68回定時総会を令和4年4月20日(水)に油脂工業会館を開催基地としてVirtual会議システムを併用して開催する。令和3年度事業報告(報告事項)、令和3年度決算案、永年会員の長年の貢献に感謝し会費の徴収を緩和することの審議、令和4年度の役員を選任、を行う。定時総会終了後、総会報告会を開催し、定時総会および新執行体制を報告する。さらに令和3年度日本油化学会の学会賞、進歩賞、ならびに功績賞および女性科学者奨励賞の表彰式、特別講演会などを開催してコロナ禍で薄れつつある会員間の親睦を深める。

### 1.2 理事会

令和3年度の理事会の開催予定は5回。令和3年度の資金運用方針、第60回年会とWCOS2022の開催、令和2年度事業報告案および決算案を審議決定する。また令和4年度の事業計画および予算を策定し、令和3年度諸事業計画の企画・実行、諸規則類の整備・改定等、重要案件を審議決定する。

### 1.3 運営委員会

運営委員会の開催予定6回。運営会議は必要に応じて開催する。運営委員会および運営会議は理事会に上程する重要案件について詳細な審議を行うが、さらに日本油化学会の持続的な財務基盤の構築および活動の活発化につながる議論を進める。

## 1.4 業務委員会およびその他委員会

本会の業務を担当する総務、財務、国際交流、オレオサイエンス編集、JOS 編集の各委員会は、それぞれ公益社団法人としての内部体制と諸規則類の整備、収支バランスを踏まえた学会活動の財務的支援、海外の学術団体および工業会などとの共同活動推進、アジア中東地域での No.1 学術誌を目指した国際情報発信の強化を継続して進める。また、企画・部会統括委員会は本部・支部・各専門部会が企画する講演会やセミナー等の事業の円滑な実施に向け、事業の内容やスケジュールの調整ならびに相互情報交換を進める。

## 2 事業計画

### 2.1 (公1)研究成果の公開、人材教育、研究の奨励及び業績の表彰を行う事業

#### 2.1.1 研究成果の公開

##### (1)日本油化学会創立 70 周年記念事業 第 2 回世界オレオサイエンス国際会議 WCOS 2022 の開催

WCOS 2022 は、朝倉 浩一 委員長(慶應義塾大学)のもと、Virtual-Only Event として 8 月 23 日(火)~9 月 3 日(土)に開催する。世界で活躍中の科学者・技術者が登壇し、近未来の技術予測が討論できる完成度より斬新性を重視した「トップカンファレンス」志向の国際会議の実現を目指す。そのために、1)国際油脂研究学会 ISF、アメリカ油化学会 AOCS と協力した特別講演、2)世界に公募して斬新な研究成果を選抜する Select Lectures、3)日本油化学会と JOS の受賞者による講演をライブ配信して科学者と技術者が討論する場を提供する。さらに時差のある日亜米欧で成果を共有できるよう、講演録画を即日オンデマンド配信する。また一般発表は、優れた発表を表彰して研究活動を奨励する。

##### (2)論文誌・会員誌の発行

JOS 編集委員会は、論文誌「Journal of Oleo Science」を 12 号発行する。一流のオープンアクセス誌のみを扱う DOAJ に JOS が掲載されたことを弾みとし、会員ならびに国内外研究者からの「JOS」への積極的な投稿が増えるよう、早期公開制度や関連研究者への働きかけなどを継続する。また、オンライン投稿審査システムを基盤に、査読者選定システムも活用して、外国人を増やすなど査読者の増加・多様化をはかる。そして、アジア~中東地区で No.1 学術誌の地位を確立することを目標に、WCOS 2022 の選抜講演などの優れた研究成果も特集号として増刊できる審査体制を整えて Impact Factor の向上や投稿数増加に努める。また、剽窃チェックシステムや英文校閲を活用し、本誌の品格維持/向上にも努める。さらに、特に内外の若手研究者の交流・ネットワーク形成等の教育的支援を通し、将来的な JOS の「国際情報発信強化」に繋げる。

会員誌「オレオサイエンス」を 12 号発行する。オレオサイエンス編集委員会は、総説約 35 件からなる特集企画、若手研究者紹介、油脂関連情報、抄録、会務記事など有益情報の早期発信を推進するとともに、WCOS の話題づくり、学術専門委員会との共同企画の Topics in Oleo Science の継続、会員が参画する紙面の充実など、さらに有用かつ魅力ある会誌づくりに努める。なお、デジタルアーカイブの WEB 公開/環境整備を継続する。

#### 2.1.2 人材教育

昨年 virtual 開催して好評であったオレオサイエンスの基礎講座フレッシュマンセミナー「油脂と脂質」と「界面と界面活性剤」。中堅研究者のための界面実践講座、油脂実践講座、若手研究者・技術者の活発な交流を目的に開催している「若手の会サマースクール」は、可能な範囲で in-person 参加等の直接交流が可能な機会を提供して満足度を高める。

上記のフレッシュマンセミナー等の本部事業は年 4 回の企画・部会統括委員会の開催により企画、運営を行う。また、各支部、専門部会の事業において、それぞれのリーダーのもと、独自に運営を行うが、企画・部会統括委員長が年 2 回開催する全体会議でスケジュール調整、相互の情報交換などを行う。

#### 2.1.3 研究の奨励・業績の表彰

油脂・脂質、界面活性剤及び関連分野の科学・技術の進歩を奨励すると共に、著しい成果をあげた研究者を表彰する。本科学分野で著しい成果を上げた研究者へは日本油化学会 学会賞を、そして本工業分野で著しい成果をあげた者へは日本油化学会 工業技術者賞を授与する。若手研究者には論文業績に対して日本油化学会 進歩賞を、そして WCOS 2022 では優れた研究発表に Out Standing Award を贈り讃えます。その中で特に国際

発信力に優れた研究発表には、英国王立化学会 (RSC: Royal Society of Chemistry) の支援を頂き共同で RSC Advances 賞を贈る。

また JOS とオレオサイエンスの優れた論文著者に贈るエディター賞、インパクト賞、ベストオーサー賞、オレオサイエンス賞と、学会への功績者の表彰についても継続する。

## 2.2 (公 2) 評価・試験法の標準化と普及を行う事業

品質管理や研究開発を担う技術系職員および学生の一般知識の向上と評価・試験技能の向上を目的として、11 月に第 22 回基準油脂分析試験法セミナーを Virtual と in-Person との同時開催で、日本油化学会が制定した試験法の標準化と普及を図る。

## 2.3 (公 3) 地域における学術の振興と普及を行う事業

各支部による講演会・セミナー等も、Virtual と in-Person の同時を視野に開催する。また支部活動の一環である(一財)油脂工業会館共催の地区講演会・セミナーを、関東支部は 10 月に新潟市で、東海支部は 11 月に浜松市で、関西支部は 6 月と 11 月(場所検討中)で、それぞれ開催する予定である。油化学の視点から市民を対象とした啓発活動を積極的に行い、地域における学術振興・普及に努める。

## 2.4 (公 4) 学術専門分野の活性化事業

専門部会活動については、オレオマテリアル部会、界面科学部会、洗浄・洗剤部会、ライフサイエンス・産業技術部会、オレオナノサイエンス部会およびマスターズクラブの体制で展開する。日本油化学会活動の基盤は専門部会活動が担うとの共通認識のもと、常に独自性、さらにグローバル視点も意識しながら学術専門分野の活性化・強化に努める。各専門部会は部会長の指導のもと、専門性の追究と研究者の交流に重点をおき、専門部会主催シンポジウム・セミナー・講習会等の充実と定着化を図る。マスターズクラブは学際的な視点・分野横断的な視点も加えた活動を展開する。

以 上

(452 回 理事会決議)



# 収支予算書（正味財産増減予算書）

令和4年3月1日から令和5年2月28日まで

(単位:円)

科目	予算額	前年度予算額	増減
<b>I 一般正味財産増減の部</b>			
<b>1. 経常増減の部</b>			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	490,000	240,000	250,000
基本財産(一般)受取利息	84,000	76,040	7,960
基本財産(指定)受取利息振替額	406,000	163,960	242,040
特定資産運用益	2,000	2,000	0
特定資産(一般)受取利息	2,000	2,000	0
特定資産(指定)受取利息振替額	0	0	0
受取会費	31,007,000	31,623,000	△ 616,000
個人会員会費	8,857,000	9,473,000	△ 616,000
法人会員会費	22,150,000	22,150,000	0
事業収益	33,574,000	26,506,000	7,068,000
年会収益	0	6,492,000	△ 6,492,000
A C O S / 年会収益	0	0	0
国際会議WCOS2022収益	14,554,000	0	14,554,000
論文誌等発行収益	6,000,000	6,000,000	0
講演会・セミナー収益	11,802,000	12,914,000	△ 1,112,000
出版物頒布収益	1,218,000	1,100,000	118,000
受取補助金等	0	2,400,000	△ 2,400,000
日本学術振興会・科学研究費補助金	0	2,400,000	△ 2,400,000
受取寄付金	3,500,000	3,200,000	300,000
油脂工業会館	3,300,000	3,000,000	300,000
石鹼洗剤工業会	200,000	200,000	0
受取寄付金振替額	0	0	0
雑収益	0	0	0
受取利息	0	0	0
雑収益	0	0	0
経常収益計	68,573,000	63,971,000	4,602,000
(2) 経常費用			
事業費	55,428,162	54,600,992	827,170
役員報酬	60,000	60,000	0
給料手当	11,646,445	11,473,842	172,603
退職給付費用	478,110	488,090	△ 9,980
役員退職慰労引当金繰入額	384,360	0	384,360
福利厚生費	1,872,498	1,150,090	722,408
旅費交通費	70,059	70,059	0
通信運搬費	778,032	778,032	0
消耗品費	203,802	203,802	0
印刷製本費	77,953	77,953	0
光熱水料	63,447	63,447	0
賃借料	2,336,552	2,336,552	0
リース費	674,460	674,460	0
ホームページ維持管理費	0	250,000	△ 250,000
年会費用	0	4,480,000	△ 4,480,000
A C O S / 年会費用	0	0	0
W C O S 2022費用	11,803,000	0	11,803,000
論文誌等発行費用	13,450,000	16,450,000	△ 3,000,000
講演会・セミナー費用	6,898,779	11,642,000	△ 4,743,221
出版物頒布費用	300,000	300,000	0
国際会議交流費	300,000	300,000	0
表彰費用	1,507,000	1,507,000	0
会議費	999,000	7,771,000	△ 6,772,000
租税公課	1,000,000	1,000,000	0
支払手数料	198,629	198,629	0
雑費	326,036	326,036	0
管理費	13,184,838	11,600,938	1,583,900
役員報酬	60,000	60,000	0
給料手当	7,288,555	7,126,158	162,397
退職給付費用	232,090	241,910	△ 9,820
役員退職慰労引当金繰入額	384,360	0	384,360
福利厚生費	1,173,619	594,654	578,965
旅費交通費	42,035	42,035	0
通信運搬費	271,120	27,120	244,000
消耗品費	122,282	122,282	0
印刷製本費	46,773	46,773	0
光熱水料	38,069	38,069	0
賃借料	1,401,932	1,401,932	0
リース費	404,676	404,676	0
ホームページ維持管理費	200,000	150,000	50,000
会議費	509,000	591,000	△ 82,000
諸会費	747,000	247,000	500,000
支払手数料	72,380	72,382	△ 2
雑費	190,947	190,947	0
経常費用計	68,613,000	66,201,930	2,411,070
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 40,000	△ 2,230,930	2,190,930
基本財産評価損益等	0	0	0
特定資産評価損益等	0	0	0
投資有価証券評価損益等	0	0	0
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 40,000	△ 2,230,930	2,190,930
<b>2. 経常外増減の部</b>			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
他会計振替額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 40,000	△ 2,230,930	2,190,930
一般正味財産期首残高	55,643,070	53,017,233	2,625,837
一般正味財産期末残高	55,603,070	50,786,303	4,816,767
<b>II 指定正味財産増減の部</b>			
受取寄付金			
基本財産運用益	406,000	163,960	242,040
基本財産(指定)受取利息	406,000	163,960	242,040
特定資産運用益	0	0	0
特定資産(指定)受取利息	0	0	0
一般正味財産への振替額	△ 406,000	△ 163,960	△ 242,040
基本財産(指定)受取利息	△ 406,000	△ 163,960	△ 242,040
特定資産(指定)受取利息振替額	0	0	0
ベストオナー賞振替額	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	27,200,000	27,200,000	0
指定正味財産期末残高	27,200,000	27,200,000	0
<b>III 正味財産期末残高</b>	82,803,070	77,986,303	4,816,767

# 収支予算書内訳表（正味財産増減予算書内訳表）

(単位:円)

令和4年3月1日から令和5年2月28日まで

科目	公益目的事業会計				共通	小計	法人会計	内部取引 控除	合計
	公1:研究成果公開,教育,研究奨励,表彰	公2:評価・試験法の標準化・普及	公3:地域における学術振興・普及	公4:学術専門分野の活性化					
<b>I 一般正味財産増減の部</b>									
1. 経常増減の部									
(1) 経常収益									
基本財産運用益	490,000	0	0	0	0	490,000	0		490,000
基本財産(一般)受取利息	84,000	0	0	0	0	84,000	0		84,000
基本財産(指定)受取利息振替額	406,000	0	0	0	0	406,000	0		406,000
特定資産運用益	2,000	0	0	0	0	2,000	0		2,000
特定資産(一般)受取利息	2,000	0	0	0	0	2,000	0		2,000
特定資産(指定)受取利息振替額	0	0	0	0	0	0	0		0
受取会費	0	0	0	0	15,503,500	15,503,500	15,503,500		31,007,000
個人会員会費	0	0	0	0	4,428,500	4,428,500	4,428,500		8,857,000
法人会員会費	0	0	0	0	11,075,000	11,075,000	11,075,000		22,150,000
事業収益	28,083,000	1,268,000	1,551,000	2,672,000	0	33,574,000	0		33,574,000
年会収益	0	0	0	0	0	0	0		0
A/COS/年会収益	0	0	0	0	0	0	0		0
国際会議WCOS2022 収益	14,554,000	0	0	0	0	14,554,000	0		14,554,000
論文誌等発行収益	6,000,000	0	0	0	0	6,000,000	0		6,000,000
講演会・セミナー収益	6,979,000	600,000	1,551,000	2,672,000	0	11,802,000	0		11,802,000
出版物頒布収益	550,000	668,000	0	0	0	1,218,000	0		1,218,000
受取補助金等	0	0	0	0	0	0	0		0
日本学術振興会・科学研究費補助金	0	0	0	0	0	0	0		0
受取寄付金	2,500,000	0	1,000,000	0	0	3,500,000	0		3,500,000
油脂工業会館	2,300,000	0	1,000,000	0	0	3,300,000	0		3,300,000
石鹸洗剤工業会	200,000	0	0	0	0	200,000	0		200,000
受取寄付金振替額	0	0	0	0	0	0	0		0
雑収益	0	0	0	0	0	0	0		0
受取利息	0	0	0	0	0	0	0		0
雑収益	0	0	0	0	0	0	0		0
経常収益計	31,075,000	1,268,000	2,551,000	2,672,000	15,503,500	53,069,500	15,503,500		68,573,000
(2) 経常費用									
事業費	42,730,905	3,757,793	4,435,709	4,503,755	0	55,428,162			55,428,162
役員報酬	30,000	12,000	12,000	6,000	0	60,000			60,000
給料手当	7,986,729	1,459,718	1,026,322	1,173,676	0	11,646,445			11,646,445
退職給付費用	363,060	46,020	23,010	46,020	0	478,110			478,110
役員退職慰労引当金繰入額	192,180	76,872	76,872	38,436	0	384,360			384,360
福利厚生費	1,286,739	235,035	162,076	188,648	0	1,872,498			1,872,498
旅費交通費	49,041	8,407	5,605	7,006	0	70,059			70,059
通信運搬費	353,108	343,138	36,149	45,637	0	778,032			778,032
消耗品費	142,662	24,456	16,304	20,380	0	203,802			203,802
印刷製本費	54,568	9,354	6,236	7,795	0	77,953			77,953
光熱水料	44,412	7,614	5,076	6,345	0	63,447			63,447
賃借料	1,635,587	280,386	186,924	233,655	0	2,336,552			2,336,552
リース費	472,122	80,935	53,957	67,446	0	674,460			674,460
ホームページ維持管理費	0	0	0	0	0	0			0
年会費用	0	0	0	0	0	0			0
A/COS/年会費用	0	0	0	0	0	0			0
WCOS2022費用	11,803,000	0	0	0	0	11,803,000			11,803,000
論文誌等発行費用	13,450,000	0	0	0	0	13,450,000			13,450,000
講演会・セミナー費用	1,453,779	280,000	2,680,000	2,485,000	0	6,898,779			6,898,779
出版物頒布費用	0	300,000	0	0	0	300,000			300,000
国際会議交流費	300,000	0	0	0	0	300,000			300,000
表彰費用	1,507,000	0	0	0	0	1,507,000			1,507,000
会議費	600,000	399,000	0	0	0	999,000			999,000
租税公課	617,698	140,681	107,799	133,822	0	1,000,000			1,000,000
支払手数料	158,658	15,988	11,919	12,064	0	198,629			198,629
雑費	230,562	38,189	25,460	31,825	0	326,036			326,036
管理費	0	0	0	0	0	0	13,184,838		13,184,838
役員報酬	0	0	0	0	0	60,000			60,000
給料手当	0	0	0	0	0	7,288,555			7,288,555
退職給付費用	0	0	0	0	0	232,090			232,090
役員退職慰労引当金繰入額	0	0	0	0	0	384,360			384,360
福利厚生費	0	0	0	0	0	1,173,619			1,173,619
旅費交通費	0	0	0	0	0	42,035			42,035
通信運搬費	0	0	0	0	0	271,120			271,120
消耗品費	0	0	0	0	0	122,282			122,282
印刷製本費	0	0	0	0	0	46,773			46,773
光熱水料	0	0	0	0	0	38,069			38,069
賃借料	0	0	0	0	0	1,401,932			1,401,932
リース費	0	0	0	0	0	404,676			404,676
ホームページ維持管理費	0	0	0	0	0	200,000			200,000
会議費	0	0	0	0	0	509,000			509,000
諸会費	0	0	0	0	0	747,000			747,000
支払手数料	0	0	0	0	0	72,380			72,380
雑費	0	0	0	0	0	190,947			190,947
経常費用計	42,730,905	3,757,793	4,435,709	4,503,755	0	55,428,162	13,184,838		68,613,000
経常増減調整前当期経常増減額	△ 11,655,905	△ 2,489,793	△ 1,884,709	△ 1,831,755	15,503,500	△ 2,358,662	2,318,662		△ 40,000
基本財産評価増益等									
特定資産評価増益等									
投資有価証券評価増益等									
評価増益等計									
当期経常増減額	△ 11,655,905	△ 2,489,793	△ 1,884,709	△ 1,831,755	15,503,500	△ 2,358,662	2,318,662		△ 40,000
2. 経常外増減の部									
(1) 経常外収益									
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0		0
(2) 経常外費用									
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0		0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0		0
他会計振替額	0	0	0	0	0	0	0		0
当期一般正味財産増減額	△ 11,655,905	△ 2,489,793	△ 1,884,709	△ 1,831,755	15,503,500	△ 2,358,662	2,318,662		△ 40,000
一般正味財産期首残高									55,643,070
一般正味財産期末残高									55,603,070
<b>II 指定正味財産増減の部</b>									
受取寄付金									
基本財産運用益	406,000					406,000			406,000
基本財産(指定)受取利息	406,000					406,000			406,000
特定資産運用益	0					0			0
特定資産(指定)受取利息	0					0			0
一般正味財産への振替額	△ 406,000					△ 406,000			△ 406,000
基本財産(指定)受取利息振替額	△ 406,000					△ 406,000			△ 406,000
特定資産(指定)受取利息振替額	0					0			0
ベストオーナー賞振替額	0					0			0
当期指定正味財産増減額	0					0			0
指定正味財産期首残高	27,200,000					27,200,000			27,200,000
指定正味財産期末残高	27,200,000					27,200,000			27,200,000
<b>III 正味財産期末残高</b>									82,803,070

注1) 当法人は、貸借対照表を公益目的事業会計と法人会計に区分していないため、一般・指定正味財産期首残高、並びに正味財産期末残高は合計欄に記載しております。  
 注2) 予算額に計上した一般正味財産期首残高の値は、前年度予算額の一般正味財産期末残高を用いたときに発生する誤差をなくすために、実績確定した令和2年度の正味財産増減計算書の一般正味財産期末残高を基準に用いて、本金額に令和3年度収支予算書で算出した令和3年度の当期一般正味財産増減額を加えて求めました。

# 公益社団法人 日本油化学会 定款

## 第1章 総 則

(名 称)

第 1 条 本会は、公益社団法人日本油化学会(英文名 Japan Oil Chemists' Society, 略称「JOCS」と称する。

(事務所)

第 2 条 本会は、主たる事務所を東京都中央区に置く。

2 本会は、必要な地に支部を置くことができる。

3 支部に関する規程は、理事会の決議を経て、別に定める。

## 第2章 目的及び事業

(目 的)

第 3 条 本会は、油脂・脂質、界面活性剤及びそれらの関連物質に関する科学と技術の進歩を図り、産業の発展及び生活と健康の向上に寄与することを目的とする。

(事 業)

第 4 条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 研究成果の公開事業
- (2) 人材教育、研究の奨励及び研究業績の表彰事業
- (3) 評価・試験法の標準化及び普及事業
- (4) 地域の学術振興及び普及事業
- (5) 学術専門分野の活性化事業
- (6) 前各号に掲げるもののほか、本会の目的を達成するため必要な事業

2 前項の事業は、本邦及び海外において行うものとする。

## 第3章 会 員

(構成員)

第 5 条 本会に次の会員を置く。

- (1) 正会員 本会の目的に賛同して入会する個人、法人又は団体とする。(法人又は団体の正会員を、以下「法人会員」という。)
- (2) 学生会員 本会の目的に賛同して入会する大学又はこれに準ずる学校に在籍する学生とする。
- (3) アジア海外会員 本会の目的に賛同して入会する日本国籍を有しない個人とする(但し、日本居住者を除く)。
- (4) アジア海外学生会員 本会の目的に賛同して入会する日本国籍を有しない学生とする(但し、日本居住者を除く)。

2 本会の社員は、正会員の選挙によって選出される代議員をもって一般社団法人及び一般財団法人に関する法律(以下「法人法」という。)上の社員とする。

3 代議員の定数は、110名以上120名以内で、理事会で定めるものとする。

4 代議員を選出するため、正会員による代議員選挙を行う。代議員選挙を行うために必要な規程は理事会において定める。

5 代議員は、正会員の中から選ばれることを要する。正会員は、前項の代議員選挙に立候補することができる。

6 第4項の代議員選挙において、正会員は他の正会員と等しく代議員を選挙する権利を有する。理事又は理事会は、代議員を選出することはできない。

7 第4項の代議員選挙は、2年に1度、11月に実施することとし、代議員の任期は、選任の2年後に実施される代議員選挙の終了時までとする。ただし、代議員が総会決議取消しの訴え、解職の訴え、責任追及の訴え及び役員解任の訴え(法人法第266条第1項、第268条、第278条、第284条)を提起している場合(法人法第278条第1項に規定する訴えの請求をしている場合を含む。)には、当該届期が終結するまでの間、当該代議員は社員たる地位を失わない(当該代議員は、役員選任及び解任(法人法第63条及び第70条)並びに定款変更(法人法第146条)についての議決権を有しないこととする。))。

8 代議員が欠けた場合又は代議員の員数を欠くこととなるときに備えて補欠の代議員を選挙することができる。補欠の代議員の任期は、任期の満了前に退任した代議員の任期の満了する時までとする。

9 補欠の代議員を選挙する場合には、次に掲げる事項も併せて決定しなければならない。

- (1) 当該候補者が補欠の代議員である旨
- (2) 当該候補者を1名又は2名以上の特定の代議員の補欠の代議員として選任するときは、その旨及び当該特定の代議員の氏名
- (3) 同一の代議員(2名以上の代議員の補欠として選任した場合にあっては、当該2名以上の代議員)につき2名以上の補欠の代議員を選任するときには、当該補欠の代議員相互の優先順位

10 第8項の補欠の代議員の選任に係る決議が効力を有する期間は、第7項の代議員の任期の満了する時までとする。

11 正会員は、法人法に規定された次に掲げる社員の権利を、社員と同様に本会に対して行使することができる。

- (1) 法人法第14条第2項の権利(定款の閲覧等)
- (2) 法人法第32条第2項の権利(社員名簿の閲覧等)
- (3) 法人法第57条第4項の権利(総会の議事録の閲覧等)
- (4) 法人法第50条第6項の権利(社員の代理権証明書等の閲覧等)
- (5) 法人法第52条第5項の権利(電磁的方法による議決権行使記録の閲覧等)
- (6) 法人法第120条第3項の権利(計算書類等の閲覧等)
- (7) 法人法第229条第2項の権利(清算法人の貸借対照表等の閲覧等)
- (8) 法人法第246条第3項、第250条第3項及び第256条第3項の権利(合併契約等の閲覧等)

(会員の資格の取得)

第 6 条 本会の会員になろうとする者は、理事会において別に定める入会届を提出し、その承認を受けなければならない。

2 法人会員にあっては、会員の代表者として本会に対してその権利を行使する1名の者(以下「会員代表者」という。)を定め、これを会長に届け出なければならない。

3 学生会員及びアジア海外学生会員になろうとする者は、第1項の入会届に在籍する学校の推薦を受けている旨記入しなければならない。

#### (経費の負担)

第7条 会員は、総会において別に定める会費を納入しなければならない。

2 既に納入した会費は、いかなる場合にも返還しない。

#### (退会)

第8条 会員が本会を退会しようとするときは、理事会において別に定める退会届を提出することにより、任意にいつでも退会することができる。

#### (除名)

第9条 会員が次のいずれかに該当するに至ったときは、総会の決議によって、当該会員を除名することができる。

- (1) 本会の定款又はその他の規則に違反したとき。
- (2) 本会の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき。
- (3) その他除名すべき正当な事由があるとき。

2 前項の規定により会員を除名する場合は、当該会員にその総会の開催の20日前までに、その旨を書面で通知するとともに、除名の決議を行う総会において、当該会員に弁明の機会を与えなければならない。

3 会長は、除名の決議があったときは、その旨を当該会員に通知しなければならない。

#### (会員資格の喪失)

第10条 会員が次の各号のいずれかに該当するときは、その資格を喪失し、退会したものとみなす。

- (1) 会費を納入せず、督促後なお会費を2年以上納入しないとき。
- (2) 死亡し、又は失踪宣告を受けたとき。
- (3) 除名されたとき。
- (4) 法人又は団体が解散し、又は破産したとき。

2 会員が前項によりその資格を喪失したときは、本会に対する権利を失い、義務を免れる。ただし、未履行の義務は、これを免れることができない。

#### (届出)

第11条 正会員、学生会員、アジア海外会員及びアジア海外学生会員は、氏名、住所、勤務先、通学先に変更があったときは、速やかに届け出なければならない。

2 法人会員は、名称、所在地、会員代表者を変更したときは、別に定める変更届を会長に速やかに提出しなければならない。

#### (名誉会員等)

第12条 本会は、本会に特に功労のあった正会員に対し、理事会の決議に基づき、名誉会員として推薦することができる。

2 本会は、油化学分野の科学・技術の発展に特に功労のあった会員(法人会員を除く)に対し、理事会の決議に基づき、フェローとして推薦することができる。

3 本会は本会に40年以上在籍する正会員を永年会員として遇して感謝の意を示すことができる。

4 第7条第1項の規定にかかわらず、名誉会員の会費を免除することができる。

5 第7条第1項の規定にかかわらず、永年会員の会費の半額を免除することができる。

6 本条に関する細目は、理事会の決議を経て別に定める。

## 第4章 総会

#### (構成)

第13条 総会は、すべての社員をもって構成する。

2 前項の総会をもって法人法上の社員総会とする。

#### (権限)

第14条 総会は、次の事項について決議する。

- (1) 会員の除名
- (2) 理事及び監事の選任又は解任
- (3) 理事及び監事の報酬等の額
- (4) 貸借対照表及び正味財産増減計算書の承認
- (5) 定款の変更
- (6) 解散及び残余財産の処分
- (7) その他総会で決議するものとして法令又はこの定款で定めるもののほか、本会の運営に関する重要事項

#### (開催)

第15条 総会は、定時総会として毎事業年度終了後3ヶ月以内に開催するほか、必要がある場合に臨時総会を開催する。

#### (招集)

第16条 総会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき会長が招集する。

2 総社員の議決権の10分の1以上の議決権を有する社員は、会長に対し、総会の目的である事項及び招集の理由を示して、総会の招集を請求することができる。

#### (議長)

第17条 総会の議長は、出席社員の中から互選により選任する。

#### (議決権)

第18条 総会における議決権は、社員1名につき1個とする。

### (決議)

第19条 総会の決議は、総社員の議決権の過半数を有する社員が出席し、出席した当該社員の議決権の過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、総社員の半数以上であって、総社員の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行う。

- (1) 会員の除名
- (2) 監事の解任
- (3) 定款の変更
- (4) 解散
- (5) その他法令で定められた事項

3 理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、候補者ごとに第1項の決議を行わなければならない。理事又は監事の候補者の合計数が第22条に定める定数を上回る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に定数の枠に達するまでの者を選任することとする。

### (議決権の行使)

第20条 総会に出席できない社員は、書面ないし電磁的方法又は代理人をもって議決権を行使することができる。

2 書面ないし電磁的方法による議決権の行使の期限は、法令で定めるところによる。

3 第1項の代理人は、代理権を証する書面を本会に提出しなければならない。

4 第1項の規定により議決権を行使する者は、第19条の規定の適用については出席したものとみなす。

### (議事録)

第21条 総会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 議事録は、議長が作成し、議事録には、議長及び出席した社員のうちからその総会において選任された議事録署名人2名以上が記名押印しなければならない。

3 議事録は、主たる事務所に備え置かなければならない。

## 第5章 役員

### (役員の種類)

第22条 本会に、次の役員を置く。

- (1) 理事12名以上17名以内
- (2) 監事 3名以内

2 理事のうちから会長1名、副会長5名以内を置く。

3 会長及び副会長を除く理事のうちから常務理事1名を置く。

4 第2項の会長及び副会長をもって、法人法に定める代表理事とする。

5 第3項の常務理事をもって、法人法第91条第1項第2号に定める業務執行理事とする。

### (役員を選任)

第23条 理事及び監事は、総会の決議によって選任する。

2 会長、副会長及び常務理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

3 理事の構成は、同一親族(3親等以内の親族及びこの者と特別の関係にある者をいう。)又は特定の企業の関係者の数が理事現在数の3分の1を超えてはならない。他の同一の団体(公益法人を除く。)の理事又は使用人である者その他これに準ずる相互に密接な関係にある者である理事の合計数は、理事の総数の3分の1を超えてはならない。監事についても、同様とする。

### (理事の職務及び権限)

第24条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。

2 会長は、法令及びこの定款で定めるところにより、本会を代表し、その業務を執行し、常務理事は別に定めるところにより、本会の業務を分担執行する。

3 副会長は、会長を補佐して、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代行する。

### (監事の職務及び権限)

第25条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

2 監事は、いつでも、理事及び使用人に対して事業の報告を求め、本会の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

3 監事は、理事が不正の行為をし、若しくは当該行為をしておそれがあると認めるとき、又は法令若しくは定款に違反する事実若しくは著しく不当な事実があると認めるときは、遅滞なく、その旨を理事会に報告しなければならない。

4 監事は、理事会に出席し、必要があると認めるときは、意見を述べなければならない。

### (役員任期)

第26条 理事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時総会の終結の時までとする。

2 監事の任期、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時総会の終結の時までとする。

3 補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了の時までとする。

4 理事又は監事は、第22条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

### (役員解任)

第27条 理事及び監事は、いつでも総会の決議によって解任することができる。

### (報酬等)

第28条 理事及び監事は、無報酬とする。ただし、常勤の理事に対しては、総会において別に定める報酬等の支給基準に従って算定した額を報酬等として支給することができる。

#### (役員の実任の免除)

第29条 本会は、法人法第114条の規定により、理事会の決議をもって、同法第111条の行為に関する理事(理事であった者を含む。)の損害賠償責任を法令の限度において免除することができる。

2 本会は、法人法第114条の規定により、理事会の決議をもって、同法第111条の行為に関する監事(監事であった者を含む。)の損害賠償責任を法令の限度において免除することができる。

## 第6章 理事会

#### (構成)

第30条 本会に理事会を置く。

2 理事会は、すべての理事をもって構成する。

#### (権限)

第31条 理事会は、次の職務を行う。

- (1) 本会の業務執行の決定
- (2) 理事の職務の執行の監督
- (3) 会長、副会長及び常務理事の選定及び解職

#### (招集)

第32条 理事会は、会長が招集する。

2 会長に事故あるとき又は会長が欠けたときは、副会長が理事会を招集する。

3 会長及び副会長が欠けたとき又は会長及び副会長に事故あるときは、各理事が理事会を招集する。

4 会長及び副会長並びに常務理事は、毎事業年度に4箇月を超える間隔で2回以上自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

#### (議長)

第33条 理事会の議長は、会長がこれに当たる。

2 会長が欠けたとき又は会長に事故あるときは、副会長が代行する。

#### (決議)

第34条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、法人法第96条の要件を満たしたときは、理事会の決議があったものとみなす。

#### (議事録)

第35条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 出席した代表理事及び監事は、前項の議事録に記名押印する。

3 議事録は、主たる事務所に備え置かなければならない。

## 第7章 委員会及び事務局

#### (委員会)

第36条 本会は、業務の円滑な運営を図るため、理事会の決議を経て、委員会を設けることができる。

2 委員会には所要の委員を置く。

3 委員会の委員は、理事会の決議を経て、会長が委嘱する。

4 委員会の組織及び運営に関して必要な事項は、理事会の決議を経て別に定める。

#### (事務局)

第37条 本会に、事務を処理するため、事務局を置く。

2 事務局には、事務局長及び職員を置く。

3 事務局長及び職員は、理事会の決議に基づき会長が任免する。

4 事務局に関する事項は、理事会の決議を経て別に定める。

## 第8章 財産及び会計

#### (財産の構成)

第38条 本会の財産は、次の各号に掲げるものをもって構成する。

- (1) 会費
- (2) 寄附金品
- (3) 財産から生じる収入
- (4) 事業に伴う収入
- (5) その他の収入

2 本会の経費は、財産をもって支弁する。

#### (基本財産)

第39条 次に掲げる財産は、これを基本財産とすることができる。

- (1) 基本財産とすることを指定して寄附された財産
- (2) 理事会で基本財産に編入することを決議した財産

#### (基本財産の管理及び処分)

第40条 基本財産は、本会の目的を達成するために善良な管理者の注意をもって管理しなければならないが、処分するときは、あらかじめ理事会及び総会の決議を経なければならない。

#### (財産の管理)

第41条 本会の財産の管理に必要な方法は、理事会の決議を経て別に定める。

(事業年度)

第42条 本会の事業年度は、毎年3月1日に始まり、翌年2月末日に終わる。

(事業計画及び収支予算)

第43条 本会の事業計画書、収支予算書、資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類については、毎事業年度開始の日の前日までに会長が作成し、理事会で決議する。

2 第1項の書類については、主たる事務所に、当該事業年度が終了するまでの間備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

(事業報告及び決算)

第44条 本会の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後、会長が次の書類を作成し、監事による監査を受けた上で、理事会の承認を受けなければならない。

- (1) 事業報告
- (2) 事業報告の附属明細書
- (3) 貸借対照表
- (4) 正味財産増減計算書
- (5) 貸借対照表及び正味財産増減計算書の附属明細書
- (6) 財産目録

2 前項の承認を受けた書類のうち、第1号、第3号、第4号及び第6号の書類については、定時総会に提出し、第1号の書類についてはその内容を報告し、その他の書類については承認を受けなければならない。

3 第1項の書類のほか、次の書類を主たる事務所に5年間備え置き、一般の閲覧に供するとともに、定款、社員名簿を主たる事務所に備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

- (1) 監査報告
- (2) 理事及び監事の名簿
- (3) 理事及び監事の報酬等の支給の基準を記載した書類
- (4) 運営組織及び事業活動の状況の概要及びこれらに関する数値のうち重要なものを記載した書類

(公益目的取得財産残額の算定)

第45条 会長は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律施行規則第48条の規定に基づき、毎事業年度、当該事業年度の末日における公益目的取得財産残額を算定し、前条第3項第4号の書類に記載するものとする。

## 第9章 定款の変更及び解散

(定款の変更)

第46条 この定款は、総会の決議によって変更することができる。

(解散)

第47条 本会は、総会の決議その他法令で定められた事由により解散する。

(公益認定の取消し等に伴う贈与)

第48条 本会が公益認定の取消しの処分を受けた場合又は合併により本会が消滅する場合(その権利義務を承継する法人が公益法人であるときを除く。)には、総会の決議を経て、公益目的取得財産残額に相当する額の財産を、当該公益認定の取消しの日又は当該合併の日から1箇月以内に、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律(以下「認定法」という。)第5条第17号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

(残余財産の帰属)

第49条 本会が清算をする場合において有する残余財産は、総会の決議を経て、認定法第5条第17号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

## 第10章 公告の方法

(公告の方法)

第50条 本会の公告は、電子公告により行う。

2 事故その他やむを得ない事由によって前項の電子公告をすることができない場合は、官報に掲載する方法による。

## 第11章 補 則

(諸規則)

第51条 この定款の実施に関して必要な事項は、理事会の決議を経て別に定める。

附 則

1 この定款の変更は、変更を決議した総会の日の翌日から施行する。

令和4年4月21日施行

本会に正会員として40年以上在籍する皆様と65歳以上の正会員の皆様の学会貢献に対する感謝について

定款第12条3項に定める永年会員の資格「本会に50年以上在籍」を「40年以上在籍」に引き下げて、長く正会員として学会に貢献くださったことに感謝して会費を半額に遇して活動を続けて頂く、とする案が総会で承認されました。永年会員の資格を在籍年数40年で区切った点については、学会運営に無理のない範囲を理事会で慎重に検討して決定しました。

また65歳以上の正会員の皆様につきましては、年会や本部主催セミナーの参加費を実費負担(テキスト代や宿泊費など)に遇して学会への貢献に感謝する、という案が理事会で承認されました。

## 令和3年度 事業報告書

発行日 令和4年5月

発行者 事務局長・業務理事 金子行裕

発行所 公益社団法人 日本油化学会

〒103-0027 東京都中央区日本橋 3-13-11 油脂工業会館内

TEL 03-3271-7463

FAX 03-3271-7464

ホームページ <https://jocs.jp/>